



最新導入装置の紹介

耳鼻咽喉科 竹内 裕美



当院では、耳鼻咽喉科の手術に使用する最新装置を導入致しました。
東部地域に初導入した装置についてご紹介します。

手術にナビ？ 耳鼻咽喉科ナビゲーションシステム

自動車に搭載されているナビゲーションシステム(ナビ)は、見知らぬ土地で「ここは何処?」「目的地はどちらの方向?」などを知るために、現在ではドライブの必需品となっています。手術でも「今どこを操作しているのか?」「危険な部位はどの方向か?」を知ることは、手術を安全にかつ効率的に行う上で必要不可欠です。手術用のナビは自動車のナビと同じシステムですが、有効なエリアを人体の一部に絞り込むことで、誤差を1mm以内に抑えています。自動車用ナビでは1m動いても画面上では現在地点は変わりませんが、手術用ナビでは2mm動けば画面上で動きを捉えることができます。

このたび新規に整備した耳鼻咽喉科ナビゲーションシステム Stealth Station™ ENTは、耳鼻咽喉科手術、特に鼻副鼻腔手術での使用を目的としたものです。鼻副鼻腔の周囲には、薄い骨を隔てて眼球・視神経、脳などの重要臓器が近接しているため、これらの臓器を損傷すれば、重篤な機能障害が生じたり、最悪の場合は命にもかかわります。ナビを使用することで、これらの危険を回避でき、これまで大学病院でしかできなかったような難易度の高い手術を当院で行う事が可能となりました。



神経は大丈夫？ 術中神経モニタリングシステム Nim Vital™

当院では甲状腺腫瘍や耳下腺腫瘍は稀な疾患ではなく、ひと月に5～6件の手術を行っています。甲状腺の近くには声帯を動かす反回神経があり、耳下腺の中には顔の筋肉を動かす顔面神経が通っています。甲状腺腫瘍や耳下腺腫瘍の手術では、これらの神経を切断しなくても、圧迫・牽引などの機械的な障害や電気メスの熱・電流による物理的な障害を受けると、反回神経では呼吸困難や嚔声(声のかすれ)、顔面神経では顔の動きの障害(顔面神経麻痺)を生じます。

このたび新規に整備した術中神経モニタリングシステムNim Vital™ は、持続的な電気刺激によって手術中の神経機能の変化を監視することで、神経障害のリスクを軽減させることができ、反回神経や顔面神経の保護に有効です。特に腫瘍が大きく神経の確認が困難な場合などには有効であり、このシステムによって神経障害のリスクを軽減させることができます。